

2008
ANALOG SYNTH
BUILDERS' SUMMIT

Build Synth Yourself

第8回

アナログシンセ・ビルダーズ・サミット

公式ガイドブック

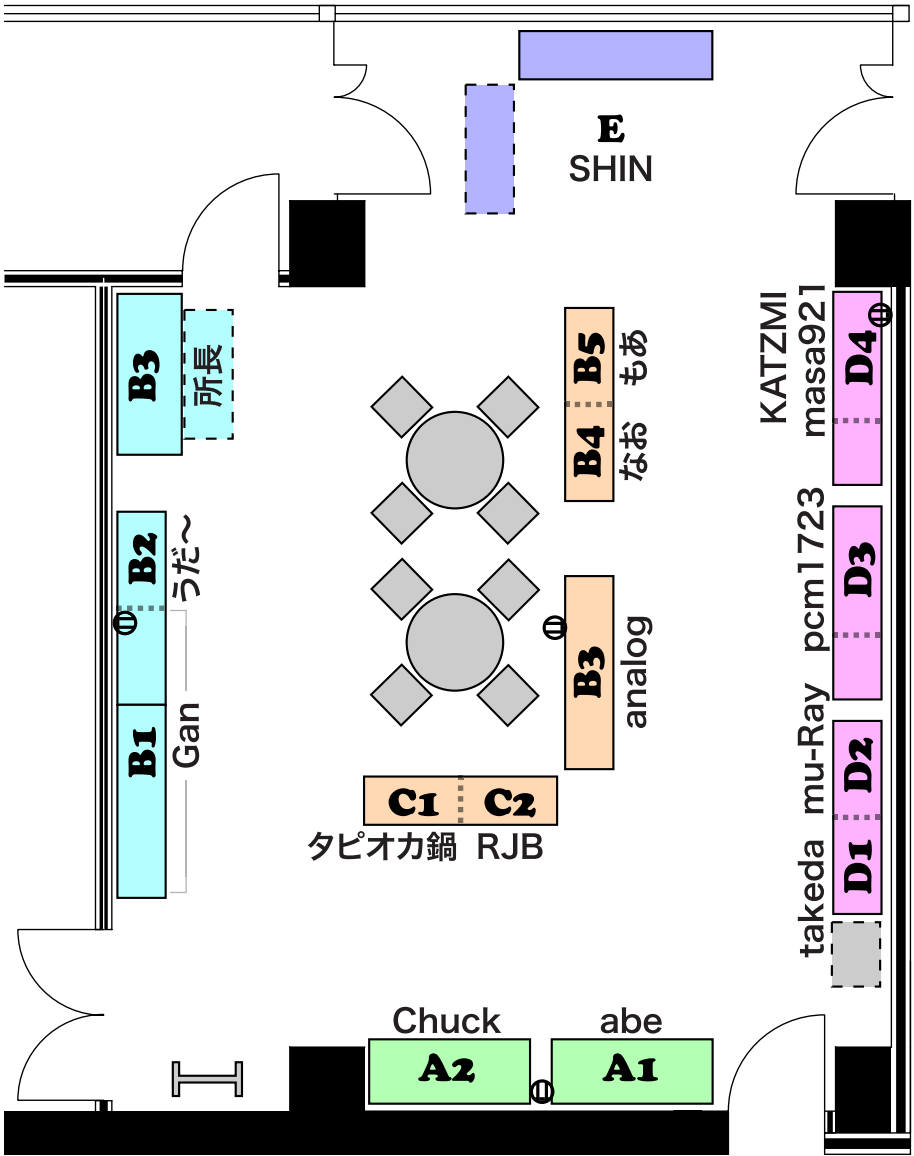
Web 公開版

日時：2008年11月2日（日）10:00～16:20

会場：ビジョンセンター秋葉原 Hall C

主催：アナログ震世界

ブース配置図



第8回アナログシンセ・ビルダーズ・サミット

目次

	ハンドル名	ブース	解説ページ
A	abe	A1	2
	analog	C3	2
C	ca3080	*	3
	Chuck	A2	3
G	gan	B1	4
K	KATZMI	D4	5
M	masa921	D4	5
	mu-ray	D2	5
P	pcm1723	D3	6
	polymoog	*	*
	prop	*	*
R	RJB	C2	7
S	sayo	*	*
	SHIN	E	8
	SYNTHI	*	*
T	takeda	D1	9
U	U	*	9
Y	yukke	*	*
う	うだ～	B2	10
お	小野	*	10
し	所長	B3	11
	シンジ	*	12
た	タピオカ鍋	C1	13
な	なお	C4	14
は	初恋天使	*	15
ひ	ひで	*	15
ま	マッシュ	*	*
も	もあ	C5	16
付	アナログシンセ・ビルダーズ・サミットのあゆみ～黎明期		13
	アナログシンセ・ビルダーズ・サミットのあゆみ～飛躍期		14
	アナログシンセ・ビルダーズ・サミットのあゆみ～模索期		15
	アナログシンセ・ビルダーズ・サミットのあゆみ～新制期		16

自作2号機 (山下モジュラーシステム)

高校時代に作ったシンセ。1978年完成。

Voltage Controlled Oscillator	3
Voltage Controlled Filter	2
Voltage Controlled Amplifier	2
Envelope Generator (ADSR)	4
Low Frequency Oscillator	4
Voltage Controlled Low Frequency Oscillator	1
Ring Modulator	2
Noise Generator	1
Inverter	1
Delay	1
Sweep Generator	1
Voltage Controlled Phase Shifter	1
Sample and Hold	1
Extra Amplifier	2
6 Channel Audio Mixer	1
Power Supply ($\pm 15V$)	1



2つの筐体に28個のモジュール



リングモジュレーターのパネル

プレゼン：あなたもリングモジュレーターが欲しくな～る

ツマミも付いていない一見地味なモジュール、リングモジュレーター。これがどんな働きをし、どんな使い道があるのか、公開実験的にご紹介します。

TR-909 EXTRACT CLONE

ROLAND TR909 から BD, SD, RIM, CLAP, HH を抜き出したクローン。

特徴

各ツマミは実機よりも広く可変できるようになっています。

BD, SD, HH は MIDI でチューニングコントロール可能です。

シャッフル機能をエミュレートし、各音源の他に DIN SYNC でつないだ機器もシャッフルさせる事が可能です。

MUTE モードを備え、各音源の他に DIN でつないだ機器も MUTE 可能です。

音は実機と聞き分けが出来ない位の仕上がりにますが、ノイズはかなり小さいです。

初めての自作シンセサイザーというページをやっておりました(今ではほとんど更新してません…) CA3080と申します。今年は何か出展したいと思っていたのですが、何も手をつけられず…。来年こそは頑張ります!!

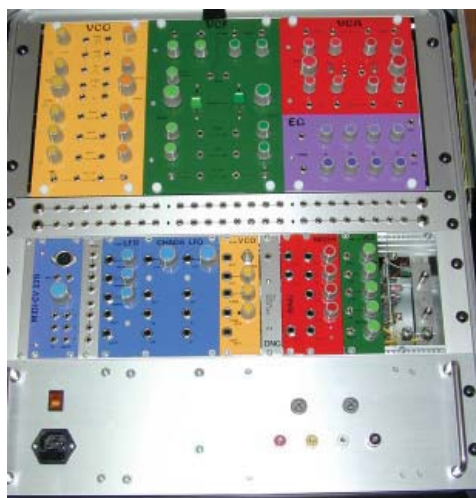
Chuck

A2

Chuck のシンセ

山下シンセ(後述)を基本とし、ネットに見つかる製作記事やワンチップマイコンを利用したオリジナルを交えたモジュラ・システム。

- 山下 VCO ×2
- 4069VCO ×1
- デジタル NG (PIC) ×1
- 山下 VCF ×2
- MS-20 VCF ×1
- 山下 EG ×2
- 山下 VCA ×2
- 山下 Ring Modulator ×1
- MIDI-CV (AVR) ×1
- tinyLFO (AVR) ×1
- Chaotic LFO2 (AVR) ×1
- 波形スコープ
- ±15V, +5V PSU ×1



Chuck のシンセ概観

山下シンセについて

1977年1月から全15回に渡り、雑誌『初歩のラジオ』に山下春生氏による「ミュージック・シンセサイザーの回路から製作、徹底ガイド」という記事が連載されました。私はこの記事を小学生のときに見ました。当時は見るだけでしたがようやく製作スキルが付いてきたと判断し、2004年のクリスマスから作り始めました。

ひとこと

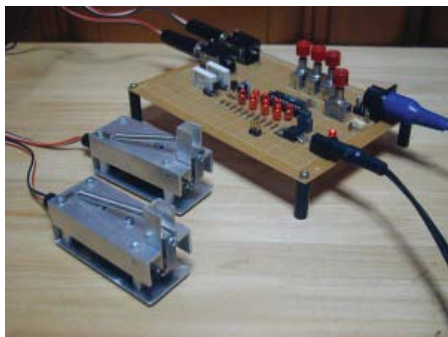
昨年展示したものと同じです。唯一波形スコープが新作です。

電磁トリガー

MIDI 対応メカ打楽器です。

バネがついている可動アームに「ばち」をつけて、何でもたたいてちゃいます。

㊦ takeda さんとの合作です。メカが takeda さん作で、基板が私です。夏に行われた「ちゃぶ台ミュージック」というイベントでの目玉楽器として作りました。



Analog2.0

仕様を規格化して設計を公開しているシンセシステムです。作り方と動作原理を

順次ドキュメント化しています。電源、VCO、VCA、Noise、Mixer と公開中。

今年の展示では、ウィンドシンセ向けポストフィルタを追加してデモします。

㊦ 進捗が遅延しまくりです。ごめんなさい。



くろちゃん

自作シンセ一号機です。製作開始から 20 年を超えてもまだ完成していません。今年もちろん未完成です。

プレゼンの要旨

展示物を全部使って合奏します。

プロフィール、その他一言

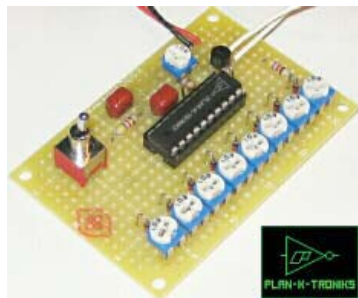
今年は、学研 SX-150 の回路設計のお手伝いをするという思いがけない幸運に恵まれ、忙しくも充実しておりました。去年のサミットで掲げた課題は「メカ化とコントローラ」でした。今年は「コントローラと楽器としてのキャラ作り」を課題にしたいです。

ウェブサイト

Gaje <http://gaje.jp/>

PLAN-K-TRONIKS (MK & KK)

PLAN-K-TRONIKS は、主として一般的な電子楽器とはちょっと違った電子音響装置の製作及び改造等の活動を行なっています。



展示物の概要

今回は学研 SX-150 のカスタムモデルを中心に展示させていただきます。

ウェブサイト <http://www.myspace.com/planktroniks>

ブログ <http://blog.myspace.com/planktroniks>

mu-Ray

mu-station TERMINI

コンセプト

ソフトシンセは数多ある時代になれど、それを快適に「楽器」らしく使えるハードウェアというものは、あまり多くありません。TERMINIは、お気に入りのソフトシンセをまるでハードウェアシンセのように扱ってしまうという、キーボード一体型パソコンです。



スペック

CPU: Intel Celeron 215 / 1.66GHz

DISPLAY: 8.1 inch LCD (1024x768) with Touch Panel

KEYBOARD: 49 Key

OS: Windows XP Home sp3

特徴

光沢塗装された木工部とアルミ素材で構成され、グランドピアノのイメージを模した筐体デザイン。8.1インチのタッチパネル液晶画面に表示されるシンセの画面を、直接タッチして操作できます。

CPUのスペックはCeleronと控えめですが、一般的なソフトシンセをひとつ動かす程度なら十分なパワー。低電圧対応なので、ACアダプターでの使用が可能です。

FM 合成方式 MIDI 音源 6 種

CQ 出版社の雑誌付録のマイコン基板 5 種

- DWM 誌 2006 年 3 月号「FRK-ADuC」
- IF 誌 2007 年 5 月号「CQ_V850」
- DWM 誌 2008 年 5 月号「CQ-STARML」
- IF 誌 2008 年 5 月号「CQ-FRK-FR60」
- IF 誌 2008 年 9 月号「CQ-FRK-MCF52233」

と、AVR マイコン (ATmega168) で FM 合成方式の MIDI 音源を 6 種製作しました。その中で 3 種は去年も出品したもので、プログラム自体の仕様も去年のままです。主な仕様としては次の通りです。

- YAMAHA 音源チップ MA-2 の FM 音源部 (2-OP mode) の仕様に準拠
- サンプリング周波数 48kHz ~ 12kHz / 同時発音数 1 ~ 16 (STARML 版)
- MIDI 入力 (31.25 kbps) / シリアル MIDI 入力 (38.4 kbps) の切り替え可能
- LCD 表示 (簡易 MIDI モニタ機能)
- タクト・スイッチ / ロータリーエンコーダー入力
- デモ曲内蔵 (AVR 版以外)

MIDI2CV 3種 (簡易シンセ付き)

いわゆる「MIDI2CV」とは、MIDI 非対応の既存のアナログシンセを MIDI 化するための、MIDI から各種 CV (制御電圧) を作り出す装置のことです。しかし、今回は高精度アナログ回路を減らすため、シンセ側回路も新規に作る方針にしました。

これも去年のままです。

VS1053b を使った MIDI 音源

VLSI Solution 製の多機能デコーダ VS1053b の「リアルタイム MIDI モード」を利用した MIDI 音源を作りました。

USB 内蔵マイコンによる USB-MIDI インターフェース

フルスピード (12 Mbps) USB ターゲット・インターフェース内蔵の 2 種のマイコン、FR60 と STARML で、標準の MIDISTreaming class 準拠の USB-MIDI インターフェースを作りました。

現在、プログラムの公開はしていませんが、将来、FM 音源プログラムにマージする形で公開することを考えています。

Web サイト「JO-MIDI-FM」 <http://www.geocities.jp/pcm1723/>

Blog「シンセ・アンプラグド」 <http://d.hatena.ne.jp/pcm1723/>

pARM type-R

昨年のサミットで拝見した takeda さん製作の手のひらシンセ「pARM」に強い感銘を受け、pARM のコンセプトの素晴らしさを広く布教すべく、コピーさせていただいた作品。

オリジナルでは $\pm 15V$ の電源が別途必要であったが、さらに「pARM」のコンセプトを増強すべく、9V の AC アダプタ単電源で動作するよう一部マイナーチェンジを施し「type-R」と勝手に命名。

MIDI-CV に ATmega88 を採用し、LFO、ノイズ、チューニング用 A440Hz 出力などの機能も新たに追加した。

CMU-800 MIDI 改

CMU-800 は AMDEK(現 Roland DG) から 1982 年に発表された、当時の PC-8001 や MZ-80 などの 8bitPC で最大 8 台のアナログシンセサイザーおよび内蔵音源(メロディ、ベース、コード 4 音、リズム音 7 種類) の演奏が可能な今と言う DTM 端末の原型みたいな画期的な製品であったが、現代の Windows マシンや Mac ではドライブしようもなく、ヤフオクでただ同然で叩き売られている。

この可哀そうな CMU-800 を現代に生かすべく、4 年前に PIC を使用した CMU-800 の MIDI 改造キットを公開したところ国内外から多くの問い合わせを頂いた。しかし当時のファームウェアはアセンブラで書いていたためバグフィックスなどが十分出来ず、そのままでは製作をお勧めできるものでは無かった。

昨年、某音楽関係の方から CMU-800 の MIDI 改造の依頼を受け、このまま改造してお渡しするのは非常に申し訳ないため、急遽 ATmega168 を採用した改造キットを開発、公開した。

この AVR バージョンでは、オリジナル PC ソフトでは機能がなかったと思われる内蔵音源へのピッチバンドやモジュレーション機能もインプリメントすることができたが、やはり内蔵音源のチープさは当時のままである。

ひとこと

今年は、札幌に異動するなど公私ともにバタバタで、シンセの製作活動がほとんどできませんでした… (泣

RJBlog <http://www.rjblog.net/>

SYSTEM100 MODULAR SYNTHESIZER

かの元 YMO 松武秀樹氏率いる LOGIC SYSTEM の新作“TANCE MATRIX”の大阪ライブで使用していただきました。無事、究極の“実用試験”？を耐えました。

中身は MOOG III C を目指して製作しましたが、残念ながら完全コピーではありません。外観だけは立派ですが、中身は“そこそこ”です。

ビスダーサミットには今年で 3 回目の参加です。

TECHNICAL

自作にあたり、構造面では盤面シルク印刷，2次元加工機によるアルミ切削加工で製作しています。

回路的には VCO はリセット型で構成、フィルターはトランジスタラダー型でモーグタイプです。EG とステップシーケンサーには PIC マイコンを使用。ロジック部分をマイコンで構成しています。将来的には PIC マイコンを各ユニットに搭載し、USART を利用してプログラムを制御しようと考えております。

SPECIFICATION

VCO	7pcs
VCF	5pcs
VCA	4pcs
LVCO	2pcs
EG	4pcs
STEP SEQ	1pcs
SEQ SWITCH	1pcs
4CH MIXER	4pcs
4BUS MIXER	4pcs
CV SWITCER	1pcs
POWER SUPPLY	1pcs
VCO DRIVER	2pcs
MULTIPLE	2pcs
ANALOG DELAY	1pcs
ATTENATOR	2pcs



pARM

アナログシンセを手作りするにはさまざまな困難が無いことも無い。

昔は、回路や部品の入手にも苦労があったのだけど、アナログシンセビルダーズサミットへの多くの方が参加される状況が象徴するように、情報面での困難はほぼ解消されつつある。しかし、まだなお残る問題点は、組み立てに掛かる時間をどう作るかだったりするのが現実。まあ、それはさておくとして、できあがったシンセをどう評価するかも難しいポイントだ。

この1年は、昨年のサミットでデビューを果たした pARM の実践での評価の年だったと言っても過言ではない。この1台を組み立てるまでに掛かった時間を思えば、1年は長くない。参加された方には、実際に触っていただきその音、操作性など、ご感想をいただければと思う。



今週のびっくりドッキリメカ軍団

今年は、アナログシンセの手作りに至る経験値の獲得を支援するべく、比較的小さめのプロジェクトを積み重ねた年でもあった。学研のSX-150 支援メカを中心に、比較的ちいさなメカをいくつか見ていただくべく準備中である。

ウェブサイト <http://beatnic.jp>

U



クラブミュージックが好きでアナログシンセに興味を持ちました。

アナログシンセ自作についてはまだまだ初心者ですが、なにとぞよろしく願いいたします。

みなさんの展示、演奏楽しみにしています。

ウダーと言う小型電子楽器を作っている宇田です。現在のウダーは音源をもっておらず、外部のMIDI音源を操作して音を出しています。いつかウダー専用音源を作り上げたいと思っています。

ウダー 3.3

2008年11月時点で最新のウダーです。ウダーはトイレットペーパーぐらいの大きさで、指で押すと音が出て、押す位置を変えると音程が変わる楽器です。



ウダーモバイル Lite

ウダー用の周辺機器をひとまとめにして持ち運び易いようにした装置です。MIDI音源、電源、アンプ、スピーカーが搭載されています。アンプはカマデン製デジタルアンプキットです。イスとしても使えます。

簡易ウダー専用音源

PSoC (マイコン?) を5個並べて出来たウダー 3.3用音源です。5個のうち4個はサイン波を出力して、残りの1個でミキシングしています。8音ポリでそれぞれに音程、音量を調節可能です。ちゃちゃつと作った割に実用的。

小野



アナログシンセ遍歴

10年くらいでしょうか。(ファーストシンセはJUNO-106です。あ、好きな音楽バレバレですね(笑))

アナログシンセに関して興味があること

興味ありまくります。モノシンセの単音での存在感、ポリシンセの和音を奏でたときの繊細さ、モジュラーシンセで音を作る自由度と変態性(笑)はどれをとっても既存の楽器が持ち合わせていなかった側面を持っている魔法の楽器です。The Philosophy Of Sound And Machine!!

一言あいさつ

一時はデジタルシンセにも興味が分かれましたが、学研のシンセと中古で買ったkorg POLY-6の出音が素晴らしく、自分の中でアナログシンセしかないと思い、昔購入し、作りかけていたシンセキットを完成させようと今回参加させていただきました。よろしく願います。

電子楽器研究所 出展物説明

いわゆる宅録スタイルのシステム構築の一例の展示です。ポータブルな録音機器がアマチュアが手にできるようになって以降、機器のテクノロジーの発達に伴い小型化・省スペース化していきましたがその本質の部分は変化していないのではないかと考えます。

リズム担当：Linn Electronics LinnDrum

80年代を代表するリズムマシンの代表です。巷では12bitだとかなんとか言われることもありますが8bitです(え?常識だつて?)

メロディーとかいろいろ担当：Roland MKS-80+MPG-80 後期型

数少ないラックタイプのアナログシンセサイザー。パラメーターが豊富でいたいこれ一台で済ませることができます。ラックマウントなので鍵盤がありません。MIDIキーボードとしてYamaha DX7を使用しています。MKS、DXともにバックライトの交換・増設作業をしています。

録音担当：Yamaha AW-1600

オープンタイプの磁気テープに始まり、カセットテープ、DAT、MDなどいろいろな媒体がありますが昨今はHDDタイプのMTRが主流と言えるでしょう。さらに発展させればDigital Audio Workstation、いわゆるDAWもあります。

音加工担当：Roland 社製エフェクターシリーズ + α

今では録音機器にプラグインや機能として組み込まれている音色の加工もかつては単体のエフェクターを駆使して行われていました。

その他：EMIL CueBox

EMILというのは電子楽器研究所(Electronic musical instrument laboratory)の略でして勝手に自分のブランドと言って遊んでおります。設計はDIY界の巨匠masa921氏によるもので設計コンセプトは某バンドのCueBoxのまんまです。

ひとこと

あいかわらず部屋はせまいまま…。曲を書くのって大変だ。

アナログシンセ ファンの皆様こんにちは。

私は、皆様のようにアクティブな掲示板活動をいたしておりませんが、今回も、去年に引き続き見学者ということで参加させていただくことにいたしました。よろしくお願いいたします。

以下に簡単な自己紹介を記します。

私は、10歳で秋葉原デビューをして、秋葉原に通って40年+ α になります。電子工作大好き少年でした。

当時の秋葉原の電子部品街は真空管全盛時代でした。トランジスタを置いてあるお店でも、2SB56などと言う、二桁型番でした。現在の2000番台、3000番台が夢のようです。

初めて見た電子楽器は、初歩のラジオあたりに紹介されたテルミンだったと思います。トランジスタ発信機を利用した電子オルガンのような物も作りましたが、おもちゃのようなものでした。

70年代になり、FM東京の深夜番組で、プログレッシブ・ロックが盛んに紹介され、プログレッシブ・ロックが大好きになりました。ワルター・カーロスや富田勲さん達が「シンセサイザー」で演奏した音楽を聴いて「ぶっ飛んだ」思い出が強烈に残っています。

電子回路が好きだったので、VCO、VCF、VCAなどの組み合わせで音を作るといふシンセに大変興味を持ちました。しかし、楽器や音楽については理解がなかったので、自分で演奏するというようなことは想像もしませんでした。

1977年頃に人気だったWAVE社のボード型シンセキットなどを組み立てていました。

デジタル回路の論理性にシビれていましたが、低周波系アナログ回路がユニット化されているアナログシンセは、アナログコンピュータの操作感に近いものがありロマンを感じました。その後、ローランドからSYSTEM-100(200?)を借りてきて、自作のマイコンシーケンサーをつないで、当時人気爆発のYMOの曲を自動演奏したのがシンセ歴の最後のような気がします。

それから、とても長いブランク期間が過ぎましたが、アナログ回路の集大成である、「アナログシンセ」を、出来ればディクリート部品で手作りしたいという夢は持ち続けています。

そんな中で、昨年、偶然、このイベントの情報を知り、早速、見学参加させていただきました。今年も見学参加になりますが、アナログシンセを愛する方達のお話を伺い、その作品を見れることを、とても楽しみにしていますので、よろしくお願いいたします。

自作シンセ (名称未決定)

皆さんのサイトを覗きながら作った、本棚に収まるモジュラシンセです。現在取まっているのはVCO、VCF、VCA、ADSR、LFOと電源。今回、スクリーン印刷に挑戦し、白とモスグリーンの面構えになりました。追加モジュール用のケースを製作中。次はツマミの量産か？

山下 VCO

山下春生氏による「初歩のラジオ」掲載の記事を参考に、VCOを作ってみました。2つのVCOをシンクロさせた音を聴くと、オシロスコープが欲しくなります。

ひとこと

他分野に浮気しながらの製作のため、すべて永遠の未完成。変な楽器インタフェースを自作して、作曲や演奏までできると面白いだろうなあと妄想したりしています。

アナログシンセ・ビルダーズ・サミットのあゆみ～黎明期

第1回 2002年9月14日 東京・秋葉原 (4人)

アナログシンセ掲示板で初めてのオフラインミーティング。ハンバーガーショップに集まり、小型シンセや作りかけの基板、秘蔵部品などを見せ合って情報交換をしたり、自作話に花を咲かせたりして過ごす。その後、パーツ屋やジャンク屋を巡り、部品を購入したり掘り出し物を探したりして秋葉原の休日を楽しんだ。

このスタイルは、その後 takeda さんの呼びかけによる「ビートニクな僕らの基本は路上にて off」として、年数回ペースで不定期に開催されている。

第2回 2003年5月17日 東京・秋葉原 (5人)

「今度は音出しができるところでやろう」ということで、カラオケボックスで開催。小さなテーブル一杯に自作シンセが積み、個性豊かな自作シンセの音が、掲示板メンバーに初めて披露された。



第3回 2003年11月30日 東京・西麻布 (8人)

メンバーの知人のレコーディングスタジオを借りて開催。スタジオにある MOOG15 と自作シンセの波形をオシロで比較するなど、貴重な体験も。ユニークな女体型真空管シンセで世界的に知られる豪州人 andrew さんも初参加。



ポラード・シンドラム クローン “なお版”

2007年サミットにて、RJB氏製作のポラードクローンに感銘を受け、氏より頂いた一枚の回路図から全てが始まりました。約3ヶ月の製作期間でしたが、意外にもパッドの製作に時間を要しました。



8/16step アナログシーケンサ “なお版”

学研ふろくシンセ SX-150 をドライブする目的で製作しましたが、一般的なアナログシンセにも対応するようにしました。16ステップ1チャンネルと8ステップ2チャンネルの切り替えが出来ます。



世界最小* テルミン

2007年サミットにこっそり持参した一品です。アンテナでのピッチ表現に加え、本体のアース部分に触れることで GATE も制御できます。電源にリチウム二次電池を使っています。

* 自称



Web 電子楽器博物館 <http://www.denhaku.com/mixi>
 mixi コミュニティ「名古屋で YMO」

アナログシンセ・ビルダーズ・サミットのあゆみ～飛躍期

第④回 2004年10月17日 東京・三軒茶屋(11人)

サイト名を「アナログ震世界」に変えて最初のサミット。リハーサルスタジオで開催し、5時間に渡って楽しんだ。出品されるアナログシンセのバリエーションも豊かになり、現在のサミットのスタイルに少し近づく。



「60年代 懐かしの宝箱」というホームページを主宰しています。

<http://homepage2.nifty.com/mtomisan/>

その中で懐かしい電子楽器や自作シンセのコーナーを作っています。

最近では「学研シンセサイザー SX-150 改造講座」を新設しました。

<http://homepage2.nifty.com/mtomisan/page162.html>

プロフィールなど詳しくはサイトもご覧ください。

30年くらい前ですが、アナログシンセサイザー、エフェクターなどいろいろ自作し、雑誌に記事を発表しておりました。

今回はじめて見学で参加させていただきます。よろしくお願いします。

ひで



10代前半、マルチバイブレータ回路にどこからかはずしたCRを切り替えたりVR付けたりして遊び

10代後半、SYSTEM-700とテープエコー等を神田商会さんで時間千円位で何回も通い曲は弾けずとも色々な音をカセットテープ録音しては家で聞いて妄想にふけり秋葉原のLAOXさんへもあしげく通いSYSTEM-100をいじくりまわし

20代でRolandショールームにて、いきなり中級講座を受け武道館にて客で入ったが、SYSTEM-700のコード抜く作業させていただき

SYSTEM-100MとMC-202を所持しているがアナログシーケンサーが無く、自分仕様のシーケンサーを作りたいと思ってる。

アナログシンセ・ビルダーズ・サミットのあゆみ～摸索期

第5回 2005年11月26日 東京・秋葉原（10人）

リハースタルスタジオで開催。狭いスペースで4時間という簡単なものだったが、ユニークな新作が多数出品され、濃い時間を過ごした。開催方法については課題が残り、次回以降に生かされることになる。



Pepper-MIDI

AVR-USB を使った学研 SX-150 用の MIDI インタフェースです。
USB-MIDI クラスをソフトウェアのみで実現しています。

特徴

パソコンの MIDI シーケンサから USB-MIDI クラスのドライバを通じて、SX-150 の CV を制御します。

- 少ない部品で USB 経由の MIDI インタフェースを実現出来ます。
- Pepper-MIDI は 8ピン AVR(Tiny45) を使い、非常にコンパクトになりました。
- USB-MIDI クラスは最新 OS では標準添付ドライバが使えて簡単。(Windows XP /MacOSX 10.0.4)
- この他にも、USB キーボードや USB-MIDI 音源など USB-MIDI クラスのデバイスを自由に作成することが可能です。

ひとこと

別プロジェクトではフィジカルコンピューティング用のプラットフォームを作成しています。サミット初参加ですが、よろしくお願いします。残念ながら、楽器は弾けません。

ホームページ <http://web.mac.com/kuwatay/>

アナログシンセ・ビルダーズ・サミットのあゆみ・新制期

第 6 回 2006年11月18日 東京・後楽 (15人)

展示スペースを重視し、初めて貸し会議室で開催。落ち着いて、思う存分展示品に触ることができた。常連の誘いにより、掲示板外の参加者も増えた。



第 7 回 2007年11月24日 東京・秋葉原 (28人)

掲示板の枠を超え、広く参加者を募った。参加登録制、ブックレット作成など、現在の運営スタイルの原型となる。

参加者は一挙に倍近くになり、13の展示ブースが並んだ。展示物は、多種多様なアナログシンセに加え、デジタル関連の出品も増えた。

また、NHKラジオの取材も入り、サミットの様子やアナログシンセの魅力などが全国放送で紹介された。



居住地別参加者数

北海道 1
宮城県 1
埼玉県 1
東京都 16
神奈川県 5
山梨県 1
愛知県 1
大阪府 2
合計 28

Q:このイベントをどのように知りましたか?

アナログ震世界の掲示板に参加して.....	14
知人から聞いて	7
アナログ震世界の掲示板をROMして	3
ブログで.....	1
検索エンジンで告知を見つけて.....	1
mixiのコミュニティーで.....	1
その他.....	1

第8回アナログシンセ・ビルダーズ・サミット 公式ガイドブック

発行日 2008年11月5日 第3版 (Web公開版)

編集者 阿部隆人

発行者 アナログ震世界

<http://analog-synth.jp/>

発行所 エイブクリエイション

〒105-0003

東京都港区西新橋3-23-6 白川ビル2A

非売品。このPDFの内容を改変しない限り複製及び再配布可。
発行者のURL及び発行所の所在地は将来予告なく変わることがあります。
著作権はアナログ震世界及び各紹介文の当該執筆者が所有します。

Not for sale.

© 2008 copyright by analog-synth.jp and each writers.

